

コント台本「ふにゃ弁慶」

国立演芸場コント台本募集への応募作として執筆した作品を再構成したものです。屋外や簡易セットでも上演でき、エチュードとしても用いられることを想定しています。感想やコメントを宜しく願います。

作品の狙い

このコントは、日本の歴史上の英雄の中で高い人気を誇る義経と弁慶を、歌舞伎における逸話と実像の差を想像して楽しむのが狙いです。そのための狂言回しとして歌舞伎の狂言作家を配し、3人コントとして仕上げました。セットは床几一つだけ、小道具は杖と数珠と巻物と柵だけです。どこでも上演できます。歌舞伎の用語は難しいものが多いですが、狂言作家がコントの中で解説することで、予備知識なしで楽しめるようになっています。歌舞伎のリズム感を活かしたコントとして演じて貰えたらと思います。

あらすじ

場所は勧進帳で知られる安宅の関を過ぎたあたり。鎌倉幕府の追手を逃れ、関所をなんとか超えた義経一行が休んでいる。他の家来を遠ざけて義経が弁慶に話しかけたところで、柵が鳴って動きが止まり、狂言作家が登場。黒子として経緯や用語を観客に説明すると言いだし、柵を鳴らすことで義経と弁慶の古風な会話を演出し始める。ところが、実はこの主従は二人だけの時はやんちゃ坊主とお調子者。しかも、義経は狂言作家が見えており、長い説明を嫌って狂言作家を脅し、話を好きなように操り始める。仕舞にはお調子者の弁慶を怖がらせようと、狂言作家に「船弁慶」の知盛の幽霊を演じさせる。嫌がっていた狂言作家がだんだん調子に乗り出すと、啞然としていた弁慶も船弁慶の名セリフで反撃。弁慶の祈祷と狂言作家の『船弁慶』のかけ声の応酬となるが、義経の悪戯で狂言作家は「ふにゃ弁慶」と叫んでしまう。これに怒った弁慶、実は狂言作家が見えていたことを明かし、主従で踏みつける。懲らしめられた狂言作家の悲痛な声で歌舞伎風の幕引きとなる。

代金

ダウンロード後、使用(上演・放送・出版・転載・マンガ原作として利用)されない場合は、代金はいただきません。ダウンロード後、使用(上演・放送・出版・転載・マンガ原作として利用)される場合は一律一回 80円 です。ただし、教育のための使用の場合は、代金はいただきません。詳細は↑の「お問合せ」からお尋ねください。送金方法は[「劇作家」のページ](#)をご覧ください。

ダウンロード

- [最新版](#) ←ここをクリックしてください: PDFファイル 448KB (A4版変形原稿用紙28字×38列×12ページ)、公開初版を組み直して微訂正したものです。
- [2014/5/15版](#) ←ここをクリックしてください: PDFファイル 59KB (A4版400字詰原稿用紙22ページ)、公開初版

 19   [共有](#)